

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：心理・社会福祉学科

資格：准教授

氏名：佐藤 淳一

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学, 力動的心理療法, 人格心理学	心理面接, 心理学的タイプ, Jung, Freud, 不登校
学位	最終学歴
博士 (文学)	甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. カウンセリング心理学 (学部開講科目)	2014年4月～現在	講義の理解を深め、意欲・関心を高める取り組みとして、学生の疑問や感想に答えながら、それらを参考に講義内容の調整を図ること、本質部分を消化・吸収しやすいようなレジュメを作成・配布すること、視聴覚教材を積極的に利用して具体的に解説することなど工夫を行っている。講義形式の授業だが、カウンセリングのロールプレイなどを通した種々のワークを適宜取り入れることで、講義の内容を補足するようにしている。
2. 臨床心理査定特論Ⅱ (大学院開講科目)	2014年4月～現在	臨床心理査定の理論と実際についての基本的な理解を身につけるため、各心理検査 (人格検査) を適切に実施し、結果の解釈ができるようになるよう、受講生自ら受検者となって心理検査を実施し、レポートを作成・提出する。教員はレポートを添削することで、学生の理解の定着をはかる。授業では担当者が各検査の理論的背景や解釈仮説を中心に発表し、討論を行う。また各領域の事例報告を通して、心理査定の実際についても検討する。
3. 双方向型の授業	2008年4月～現在	講義の最後に、質問コメント用紙を配布し、講義中に新たに学んだ点や疑問点・質問点などを記入させ、回収する。次回の授業の冒頭で、各自の疑問点・質問点に答えて適切な内容の理解を図るとともに、理解の到達度や学習上の興味に応じて、講義の内容および方法を適宜調整、修正するようにしている。
4. 授業外における学生指導	2008年4月～現在	学部生への卒業論文の作成指導、大学院生への心理相談室での担当ケースの臨床指導、修士論文の作成指導などを行っている。
5. 臨床心理基礎実習Ⅰ (大学院開講科目)	2008年～2013年	大学院開講科目の臨床心理基礎実習Ⅰを主担当し、修士一年生全員を対象に、臨床心理面接の基本的態度と技術の習得をねらった講義ならびに演習を行った。具体的には、クライアント中心療法を中心とする理論についての講義、ならびにセラピスト役とクライアント役を通したロールプレイ形式による臨床心理面接 (ロールプレイA～D, インテーク面接等) の演習を行った。それらの逐語録レポートの課題提出を求めて、個別に添削指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 『心理面接の教科書—フロイト, ユングの知恵と技から学ぶ』 (創元社)	2015年2月	Anthony Storr (1990) The Art of Psychotherapy second edition. New York/Routledgeの邦訳。英国の著名な精神科医・精神療法家のアンソニー・ストーによる、力動的な心理療法の理論と実際について解説した書で、英国では長く読み継がれてきた。精神分析と分析心理学の考え方を良心的に統合している。第1部「心理療法の進め方」、第2部「心理療法の技法、関係性」、第3部「患者のパーソナリティ」、第4部「心理療法の治癒、心理療法家のパーソナリティ、趣味」。監訳者：吉田圭吾；訳者：佐藤淳一 (全320p)
2. 『臨床心理基礎実習Ⅰの手引き』	2014年2月	大学院開講科目「臨床心理基礎実習Ⅰ」のために作成した手引き。セラピストの基本的態度と技術を習得するため、クライアント中心療法の理論に基づいた、セラピスト役とクライアント役のロールプレイ形式による心理面接 (ロールプレイA～D, インテーク面接等) の演習が、マニュアル形式で行えるようになっている。
3. 心理学英語文献講読Ⅱの教材	2014年10月	心理学英語文献講読Ⅱの教材である, Knox, J. (2013). 'Feeling for' and 'feeling with': developmental and neuroscientific perspectives on intersubjectivity and empathy. Journal of Analytical Psychology, 58, 491-509. の翻訳
4. 心理面接例のDVD素材	2008年8月	上記の臨床心理基礎実習Ⅰの教材として、セラピスト役とクライアント役のロールプレイ形式による心理面接の実演例のDVDを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 平成25年度上越教育大学教職員免許状更新講習講師	2013年8月	教職員免許状更新講習の講師として、「最新の教育事情 (上越A)」の「子どもの変化についての理解」を担当し、「子どもの発達についての課題」と「子どもの生活の変化を踏まえた指導」について講義ならびに試験を行った

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 平成21年度上越教育大学教職員免許状更新講習講師	2009年8月	。教職員免許状更新講習の講師として、「最新の教育事情D（子どもの変化についての理解）」を担当した。「子どもの発達についての課題」と「子どもの生活の変化を踏まえた指導」について講義ならびに試験を行った。
4 その他		
1. 武庫川女子大学高大連携事業（附属高2年生対象の出張講義）	2016年2月3日	武庫川女子大学附属高2年生対象の出張講義の担当教員として、「カウンセリングにおける聞く態度と技術」の講義と簡単な演習を行った。
2. 新潟県立国際情報高校・高大連携事業（臨床心理学）講師	2010年7月16日17日	新潟県立国際情報高校における高大連携事業（臨床心理学）の講師として、臨床心理学概論、臨床心理査定演習、臨床心理面接演習からなる授業を4コマ行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	2003年4月1日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 平成27年度不登校生・高校中退者のための学校相談会講演会講師	2016年1月30日	通信制高校・サポート校相談会事務局主催「不登校生・高校中退者のための学校相談会」の講師として、「子どもと親が生き生きとなるために不登校の心理的理解と援助」を題目に、不登校の心理的理解と援助について講義を行った（兵庫私学館）
2. 平成27年度兵庫県教育委員会教職員初任者研修会講師	2015年10月27日	小・中学校教職員初任者研修の講師として、「教育相談～カウンセリング技法実習～」を題目に、児童生徒へのカウンセリングについての講義と演習を行った（但馬地区：兵庫県立但馬長寿の郷）。
3. 平成25年度教職12年経験者研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2013年8月1日	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生徒指導のコツ」）講師として、自己理解・他者理解についての講義ならびにカウンセリング演習を行った。（中越地区：サンラック小千谷）
4. 平成25年度十日町市立教育委員会社会性育成研修会講師	2013年10月9日	新潟県十日町市立教育委員会社会性育成研修会の講師として、不登校を中心とする児童生徒の理解と対応について解説した。
5. 平成24年度教職12年経験者研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2012年8月2日	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生徒指導のコツ」）講師として、保護者対応についての講義ならびにカウンセリング演習を行った。（上越地区：上越市市民プラザ）
6. 平成23年度新潟県中学校教職員研修講師	2011年8月8日	教職員研修会の講師として、カウンセリングの基本的態度と技術について講義・演習（上越市立雄志中学校）、トラウマの心のケアについて講義を行った（上越市立吉川中学校）。
7. 新潟県臨床心理士会倫理委員会委員	2011年4月～2014年3月	新潟県臨床心理士会の倫理委員会の委員を務めた。
8. 平成22年度新潟県中学校教職員研修講師	2010年8月3日、9日	教職員研修会の講師として、動作法やリラクゼーション法などの演習（上越市立吉川中学校）、児童生徒の不登校に関する理解と対応について解説した（上越市立雄志中学校）。
9. 平成22年度教職12年経験者研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2010年8月2日	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生徒指導のコツ」）講師として、カウンセリングの基本的態度と技術について講義ならびに演習を行った。（中越地区：サンラック小千谷）
10. 平成21年度新潟県中学校教職員研修講師	2009年8月4日、5日	研修会講師として、カウンセリングの基本的な講義とロールプレイによる演習を行った（上越市立雄志中学校、上越市立吉川中学校）
11. 平成21年度教職12年経験者研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2009年8月3日	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生徒指導のコツ」）講師として、カウンセリングの基本的態度と技術について講義ならびに演習を行った。（上越地区：上越市市民プラザ）
12. 平成20年度教職12年経験者研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2008年8月4日	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生徒指導のコツ」）講師として、カウンセリングの基本的態度と技術について講義ならびに演習を行った。（中越地区：柏崎市市民プラザ）
13. 独立行政法人国立病院機構さいがた病院医療観察法病棟「倫理会議」「外部評価会議」委員	2008年4月～2014年3月	独立行政法人国立病院機構さいがた病院の医療観察法病棟における「倫理会議」ならびに「外部評価会議」の外部委員を務めた。
14. 日本パーソナリティ心理学会「パーソナリティ研究」編集委員	2008年11月～2012年10月	日本パーソナリティ心理学会の学術雑誌「パーソナリティ研究」の編集委員として、投稿論文の査読審査を担当した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
15. 平成20-21年度真宗大谷派高田別院カウンセリング講座講師	2008年10月17日, 2009年10月22日	「カウンセリング講座」(上手な聞き方講座)の講師として、講義ならびに演習を行った(真宗大谷派高田別院)。
16. 平成19年度兵庫県小・中学校教職員研修会講師	2007年8月23日~12月5日	教職員研修の講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った(たつの市立河内小学校、姫路市立飾磨中部中学校、たつの市立揖保川中学校)。
17. 兵庫県姫路市あすなろ教室「子育て座談会」講師	2007年11月23日	小学生、中学生、高校生の子どもを持つ保護者を対象とした子育て座談会の講師を務めた。
18. 平成17年度兵庫県小・中学校教職員研修会講師	2005年8月1日~9日	教職員研修の講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った(赤穂市立塩屋小学校、赤穂市立赤穂東中学校、たつの市立揖保川中学校、赤穂市立坂越中学校)。
19. 平成15年度兵庫県教職員小・中学校研修会講師	2003年8月28日	教職員研修の講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った(たつの市立龍野西中学校、龍野小学校)。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				

2 学位論文				
1. Jungのタイプ論に関する基礎的研究(博士論文)	単	2007年3月	甲南大学大学院人文科学研究科(甲第59号)	Jungのタイプ論に関する理論的、臨床的研究を展望した上で、実証的な基礎的研究を蓄積したものである。まず、これまでの心理学的タイプの測定尺度を再検討した上で、新たな心理学的タイプの測定尺度Jung Psychological Types Scale (JPTS)を作成した。そして、心理学的タイプと各種パーソナリティとの関連(Kretschmerの気質タイプ、共感性、ロールシャッハ反応、バウム作品など)、学派・技法選択別にみた心理療法の心理学的タイプの特徴を明らかにした。さらに心理学的タイプの代表者との面接調査を実施し、質的な検討も試みた。(全251p)

3 学術論文				
1. Additional report about the validity of the Jung Psychological Types Scale【査読付】	単	2017年5月	Online Journal of Japanese Clinical Psychology, 4, 1-7	The Jung Psychological Type Scale (JPTS) is the most recently developed instrument for the measurement of Jung's psychological types. This present study provides additional assessment of the validity of the JPTS using data from Japanese university students. Evidence for the concurrent validity of JPTS scores is presented based on agreement of psychological types with the MBTI Form M. These findings suggest that the categorical approach provides additional support for the validity of the JPTS.
2. 不登校を主訴とする中学生の心理面接過程における重要な出来事事例の質的なメタ分析【査読付】	単	2016年5月	臨床心理学, 16(3), 33-341	不登校を主訴とする中学生本人の個人心理面接の最終事例を、公刊されている学術雑誌から複数抽出し、それらの面接経過から「重要な出来事」を同定し、面接段階別にどのような特徴が見られるのかグラウンディッドセオリーアプローチを用いて検討した。その結果、C1の出来事の領域に「イメージの表現、遊び、趣味の話」のカテゴリーが中心的に認められ、なかでも想像、空想活動を通じた情緒表出の重要性が示唆された。また性差では、女子の場合「現実的な語り」が見られ治療関係に言語的交流を伴うが、男子の場合「現実的な語り」が見られず治療関係も非言語的交流が中心であった。
3. 教員養成大学生における自己決定タイプと適応感および抑うつとの関連	共	2015年3月	上越教育大学心理教育相談研究, 14, 47-59	アイデンティティ形成と職業決定意識との関連が教員養成大学生の適応感および抑うつに及ぼす影響を明らかにした。質問紙調査を行ったところ、職業決定意識の高低に関わらず、アイデンティティ形成度が高い者が適応感が高く、抑うつ傾向が低いことが示された。従来職業決定意識が強調されてきたが、それに関わらずアイデンティティ形成が進んでいる者は適応や精神的健康の低下を招かないことが示唆された。 共著者：竹村有貴・佐藤 淳一
4. 心理学的タイプの向性とロールシャッハ・テストの体験型との関連【査読付】	単	2014年8月	心理臨床学研究, 32, 392-397	心理学的タイプの向性とロールシャッハ・テストの体験型の関連について、体験型をより包括的に捉える新たな指標を設けたうえで、両者を実証的に再検討したが、有意な関連はみられなかった。このことから、両者の概念を同一のものとして扱うことには注意を要すること、さらにはRorschachのextratensivをタイプ論と区別して「外拡」と訳したように、introversivも従来の「内向型」ではなく「内拡型」と呼ぶほうがふさわしいことが示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 大学生における日常的解離と適応感、精神的健康との関連—主体性の観点からの検討	共	2014年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 13, 12-23	日常生活で体感しうる日常的解離を取り上げ、それが働く基盤である主体性の形成とどのように組み合わせたり、精神的健康や適応感に影響を及ぼすのか検討した。大学生男女を対象に質問紙調査を行ったところ、日常的解離を多く体験していても主体性が形成されていれば適応感や自尊心の低下と結びつかないが、逆に主体性が形成されていなければ適応感や自尊感情の低下と結びつくことが示唆された。 共著者：齋藤真結子・佐藤淳一
6. 子どもの不登校をきっかけに来談した母親の心理面接過程—「子ども」を巡る罪悪感	共	2014年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 13, 67-77	子どもの不登校をきっかけに来談した母親の終結事例を報告し、そのプロセスについて検討した。母親は子どもが登校するようになっても面接の継続を要望し、「子ども」を巡る罪悪感や後悔を繰り返すことにより、自身の葛藤を整理し、さらには母親自身の変容していった。こうした罪悪感や後悔は、たんに子どもの不登校のことだけでなく、「子ども」との分離の悲哀であるとも理解でき、さらには個性化の萌芽であったことが示唆された。 共著者：佐藤淳一・中條裕子・徳嵩かおり・今井恭平
7. 親面接における二重性	単	2013年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 12, 79-88	心理臨床において親・親子並行面接は多く実践されているが、体系立てて論じられることはさほど多くない。本論文は、親面接・親子並行面接の意味や役割について述べた後、親面接の過程に生じるさまざまな論点を取り上げながら、そこにはある種の二重性がつきまとうことを論じた。それは、外的現実と捉えるだけでも心的現実として捉えるだけでも十分とは言い切れない、「二重性の現実」とも呼べる側面があることを論じた。
8. 大学生における被共感経験と適応感、精神的健康との関連	共	2013年2月	上越教育大学研究紀要 , 32, 191-199	これまで共感研究では、他者を共感するという「共感経験」を捉えていて、他者から共感されるという「被共感経験」は扱われてこなかった。そこで本研究は、大学生における共感経験、被共感経験と適応感、精神的健康との関連を検討した。その結果、共感経験の高いものは必ずしも高い適応感を示すわけではなかったが、被共感経験の高いものは比較的高い適応感を示した。こうした結果から、大学生における被共感経験の重要性が論じられた。 共著者：秋山佳子・佐藤淳一
9. 「死と再生」再考—被虐待経験のある中学生男子との遊戯療法【査読付】	単	2013年11月	箱庭療法学研究, 26(2) , 5-16	被虐待経験のある中学生男子との遊戯療法過程を報告し、被虐待経験を持つクライアントにおける「死と再生」の概念の再検討を行った。箱庭を用いた遊びやちゃんばら遊びなどから、「死と再生」のプロセスは、死の体験の後に再生が訪れるというものというより、むしろ「再生の死」、あるいは「死の再生」という過程が繰り返されること、そしてそのプロセスは弔いや鎮魂のイメージによって完遂されることが示唆された。
10. 青年期における自己愛傾向と対人恐怖心性との関連	共	2012年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 11, 71-81	Gabbardの言う「評価過敏性」と「誇大性」の観点から自己愛を捉えた上で、青年期における自己愛傾向と「おびえ」の心性に基づく対人恐怖心性との関連を検討した。大学生男女を対象に質問紙調査を行った結果、評価過敏性と誇大性がともに両高群と誇大性のみが高い評価過敏群は、その他の群よりもおびえに基づく対人恐怖心性が高く、精神的健康度も低かった。その一方で、両高群は評価過敏群よりも適応感が高かった。こうした結果について自己愛の観点から考察を行った。 共著者：星野光紀・佐藤淳一
11. 不登校研究の展望（Ⅱ）—国内における1980年代の臨床心理学の事例論文から	共	2012年2月	上越教育大学研究紀要 , 31, 169-179	国内における1980年代の「登校拒否・不登校」に関する臨床心理学の事例論文を展望した。70年代よりも事例研究の数は増え、名称としては登校拒否がよく使われていた。心理療法の種類は、「来談者中心療法」、「力動的心理療法」、「行動療法」、「家族療法」が報告され、その面接経過については心理療法の種類や形態によってさまざまな過程が見られるようになっている。 共著者：佐藤淳一・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・橋本賢司・秋山佳子
12. 心理療法家における心理学的タイプ—心理療法の学派および技法のオリエンテーションとの関連【査読付】	単	2012年2月	心理臨床学研究, 30(4) , 548-558	心理療法家の心理学的タイプと学派および技法のオリエンテーションとの関連を明らかにするため、質問紙調査を行ったところ、分析心理学を学派として志向する心理療法家群や、芸術療法・夢分析の技法を実践する心理療法家群は、相対的に直観機能が高かった。一方、一般態度については学派や技法の志向性と関わっていなかった。こうした結果から、心理療法家の心理学的タイプと心理療法の学派および技法の志向性との関係が考察された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
13. フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察 (VII) — 「診療録」と「 公刊された論文」との対比	共	2011年3月	京都文教大学臨床心理学 学部研究報告, 3, 141- 157	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記 録について検討した (第40セッションから47セッシ ョンまで)。診療記録とその後公刊された論文と を比較検討し, Freudが論文化する際にどのような点 を省略, 追加, 修正したのか明らかにし, それら の内容や背景について考察した。 共著者: 鐘幹八郎・佐藤淳一
14. 居場所と精神的健康との関連— 一人でいられる能力の観点から	共	2011年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 10, 67-79	Winnicottの言う「一人でいられる能力」を内的な居 場所と捉えた上で, 内的な居場所が外的な居場所と どのように組み合わせたり, 精神的健康などに影響を 及ぼしているのかを検討した。高校生男女を対象に 質問紙調査を行ったところ, 外的な社会的居場所が 得られているものであっても, 一人でいられる能力 が低ければ精神的健康度が低く示された。こうした 結果から, 一人でいられる能力の重要性について考 察された。 共著者: 今井恭平・佐藤淳一
15. 不登校研究の展望—国内における 70年代までの「学校恐怖症・登校 拒否」	共	2011年2月	上越教育大学研究紀要 , 30, 123-132	国内における70年代までの「学校恐怖症・登校拒否 」の文献を収集し, 「来談者中心療法/力動的心理 療法」, 「行動療法」といった事例研究, 「心理査 定」, 「心理面接・治療過程」, 「要因・類型化」 , 「予後」といった調査研究にわけ, それぞれの分 類ごとに内容を検討した。 共著者: 佐藤淳一・今井恭平・大西愛美・岩田嘉光 ・齋藤真結子・星野光紀・小出奈津子
16. フロイトの症例「ねずみ男」に関 する考察 (VI) — 「診療録」と「 公刊された論文」との対比	共	2010年8月	京都文教大学臨床心理 学部研究報告, 2, 179- 192	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記 録について検討した (第30セッションから39セッシ ョンまで)。診療記録とその後公刊された論文と を比較検討し, Freudが論文化する際にどのような点 を省略, 追加, 修正したのか明らかにし, それら の内容や背景について考察した。 共著者: 鐘幹八郎・佐藤淳一
17. バウム・テストとJungの心理学的 タイプ	単	2010年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 9, 73-82	描画者におけるパーソナリティ特性と描画作品との 関連を明らかにするため, 大学生男女を対象にJung の心理学的タイプ測定尺度とバウム・テストを実施 し, 心理学的タイプ別にバウム作品の特徴を量的分 析 (形態分析) ならびに質的分析 (動態分析および 全体的印象) から検討した。その結果, 心理学的タ イプ別にバウム作品の特徴が明らかになり, 描画者 における心理学的タイプがバウム作品に反映されて いることが示唆された。
18. 共感性と感情機能-Jungのタイプ 論による検討	単	2010年2月	上越教育大学研究紀要 , 29, 159-167	感情機能が高ければ共感性が高いという従来の知見 を再検討するため, 共感性を共有経験と共有不全経 験から位置付けたうえで心理学的タイプとの関連を 検討した。その結果, 内向感情タイプにおいては他 者理解の際に個別性の認識をもった共感を示すのに 対し, 外向感情タイプにおいては個別性の認識をも たない同情を示しており, 必ずしも感情機能が高め れば共感性が高いわけではないことが示唆された。
19. Kretschmerの気質タイプとJungの 心理学的タイプ—向性概念をめぐ って【査読付】	単	2009年3月	パーソナリティ研究, 1 7(2), 223-225	これまでKretschmerの気質タイプとJungの心理学的タ イプの向性との関連については, 循環気質と外向性 、分裂気質と内向性との対応が理論に指摘されたこ ともあったが, 実証的に明らかにされていなかった。 そこで, 大学生を対象に気質タイプ尺度と心理学的 タイプ尺度を実施したところ, 仮説通り, 循環性気 質タイプと外向タイプ、分裂性気質タイプと内向タ イプの連関が示された。
20. 強迫傾向と完全主義の関連	共	2009年3月	上越教育大学心理教育 相談研究, 8, 81-89.	強迫傾向も完全主義も「しなければならない」と考 える性格で, そうした考えにとらわれている。本研 究は, 完全主義を「自分に向けられるもの」ととも に「他者から望まれるもの」も含めて定義し, 大学 生における強迫傾向との関連を実証的に検討した。 その結果, 両者は「ミスを気にすること」, 「漠然 とした疑いをもつこと」, 「優柔不断であること」 が共通していたが, 完全主義の「整理整頓」は強迫 傾向と関わっていなかった。 共著者: 中條裕子・佐藤淳一
21. Jungの心理学的タイプ測定尺度 (JPTS) の作成【査読付】	単	2005年8月	心理学研究, 76(3), 20 3-210	Jungの心理学的タイプを測定する既存尺度について はさまざまな課題が指摘されているため, 国内で用 いることのできる新たな尺度 (Jung Psychological Types Scale; JPTS) を作成した。JPTSの特徴は, 1) Jung派分析家による内容妥当性が確認されたこと, 2) 内的整合性と安定性から信頼性が得られたこと, 3) 検証的因子分析によりタイプ論の概念を反映する 3因子モデルが得られたこと, 4) MBTIによる併存妥 当性の検討が行われたこと, 5) ビッグ・ファイブの 3側面に対応していることである。
22. 症例「ねずみ男」に関する考察	共	2005年3月	京都文教大学大学院臨	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(IV)－診療記録の翻訳の試みおよび 公刊された論文との対比			床心理学研究科紀要, 3 , 65-73	録について検討した(第18セッションから23セッションまで)。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：鏑幹八郎・佐藤淳一
23. 症例「ねずみ男」に関する考察 (V)－診療記録の翻訳の試みおよび 公刊された論文との対比	共	2005年3月	京都市教大学大学院臨床心理学研究科紀要, 3 , 75-84	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した(第24セッションから29セッションまで)。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：鏑幹八郎・佐藤淳一
24. Jungのタイプ論に関する研究の展望 (II)－理論的論考を中心に	単	2005年3月	甲南大学紀要文学編, 1 37, 139-155	これまでのJungのタイプ論研究に関する理論的論考について展望した。分析心理学においてタイプ論は、たんにクライアントを理解するためだけでなく、セラピスト自身の立場を理解する批判的道具として、あるいは分析場面での羅針盤として位置づけられている。タイプ論の対極性についての賛否の議論、個性化の過程におけるタイプ論の役割、元型心理学におけるタイプ論の概念について整理した。
25. フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察 (III)－診療記録の翻訳の試みおよび 公刊された論文との対比	共	2004年3月	京都市教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編, 2, 125-133	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した(第12セッションから17セッションまで)。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：佐藤淳一・鏑幹八郎
26. フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察 (II)－診療記録の翻訳の試みおよび 公刊された論文との対比	共	2004年3月	京都市教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編, 2, 115-124	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した(第10セッションから11セッションまで)。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：佐藤淳一・鏑幹八郎
27. フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察 (I)－診療記録の翻訳の試みおよび 公刊された論文との対比	共	2003年3月	京都市教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編, 創刊号, 117-130	Freudによる強迫神経症の症例、俗称「ねずみ男」の診療記録について検討した(第1, 8, 9セッション)。まず、ねずみ男研究に関する先行研究を展望した。次に、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。そして、診療記録と公刊された論文と比較検討し、Freudが論文化するにあたって省略、追加、修正した記録の箇所を明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：佐藤淳一・鏑幹八郎
28. Jungのタイプ論に関する研究の展望－ 心理療法場面に関する研究を中心に	単	2003年3月	甲南大学紀要文学編, 1 27, 32-43	Jungのタイプ論研究の中でも、臨床場面に関する文献を取り上げて展望した。分析心理学におけるセラピストの心理学的タイプ、クライアントとの心理学的タイプの類似性とその治療効果を検討した調査研究がある。また、MeierやGrosebeckは心理学的タイプの力動的視点から転移・逆転移関係について分析を行い、両者の劣等機能が面接の転回点において重要な役割を果たすことを論じている。
29. Jungの心理学的タイプにおける質的 検討の試み－半構造化面接、共感イメージ課題、 絵画および音楽作品に対する感受性を通して【査読付】	単	2003年12月	心理臨床学研究, 21(5) , 496-507	Jungの心理学的タイプを質的に検討することを試みた。心理学的タイプの各代表者を選出し、個別の面接調査を行った。まず、語りの内容をタイプ別にまとめ、考察を行った。共感イメージ課題に対する反応内容からは、感情タイプは思考タイプよりも「悲しみ」に対する共感性が高いことが示された。また、絵画と音楽作品に対する感受性内容からは、直観タイプは感覚タイプよりも、作品の属性に捉われない知覚様式の特徴がみられた。
30. Jungのタイプスケールに関する基礎研究－ GW/JTS, MBTI, SL-TDIにおける信頼性および 妥当性の比較検討【査読付】	単	2003年10月	心理臨床学研究, 21(4) , 410-415	心理学的タイプを測定する既存尺度GW/JTS、MBTI、SL-TDIの日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を比較検討した。その結果、内的整合性による信頼性については、MBTIおよびSL-TDIが十分な結果を示し、MBTIの因子妥当性については、おおむねタイプ論を反映する因子構造を示した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 相補性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度の作成	単	2017年9月8日	日本パーソナリティ心理学会第26回大会 東北文教大学	日本パーソナリティ心理学会第26回大会発表論文集, p. 68
2. 箱庭制作者と評定者における心理学的タイプと作品の印象評価	単	2017年9月20日	日本心理学会第81回大会 久留米シティプラザ	日本心理学会第81回大会発表論文集, p. 235
3. バウム・テスト2枚法による自己像の変動性—印象評価の観点から	共	2017年11月19日	日本心理臨床学会第36回秋季大会 パシフィコ横浜	共同発表：大矢真里・大矢薫・岩田嘉光・星野光紀・佐藤淳一。日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, p. 281
4. 児童養護施設における被虐待児の心理的特徴5—小学生を対象としたバウム作品のイメージ評定	共	2016年9月5日	日本心理臨床学会第35回秋季大会 パシフィコ横浜	共同発表：大矢真里・大矢薫・岩田嘉光・星野光紀・佐藤淳一 日本心理臨床学会第35回秋季大会発表論文集, p. 302
5. 大学生における心理学的タイプと箱庭作品の特徴	単	2016年9月5日	日本心理臨床学会第35回秋季大会 パシフィコ横浜	日本心理臨床学会第35回秋季大会発表論文集, p. 362
6. Qualitative analysis of significant events in psychotherapy for school refusal in Japan	単	2014年8月8日	122nd Annual Convention of APA 2014, The Walter E. Washington Convention Center	Session:#2207, Sponsoring Division: 12 Session Type: Poster Session, Session Title: Issues in Developmental Psychopathology and Psychopathology in Specific Populations
7. 大学生における対象関係パターンと自尊感情、精神的健康との関連	共	2014年8月24日	日本心理臨床学会第33回秋季大会 パシフィコ横浜	共同発表：皆川恵・佐藤淳一
8. 児童養護施設における被虐待児の心理的特徴4—トラウマ反応と抑うつ反応について	共	2013年9月21日	日本心理学会第77回大会 札幌コンベンションセンター	共同発表：佐藤淳一・林直・市川捨蔵・高野善晴・樋口悦子・平原富江・大矢真里
9. 不登校を主訴とする中学生の心理面接過における重要な出来事—事例の質的なメタ分析	共	2013年8月27日	日本心理臨床学会第32回秋季大会 パシフィコ横浜	共同発表：佐藤淳一・皆川恵
10. 児童養護施設における被虐待児のバウム作品3—中高生を対象としたSD法評定	共	2013年8月26日	日本心理臨床学会第32回秋季大会 パシフィコ横浜	共同発表：大矢真里・今井恭平・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・佐藤淳一
11. 大学生における解離傾向と精神的健康、適応感との関連	共	2012年9月14日	日本心理臨床学会第31回秋季大会 愛知学院大学	共同発表：齋藤真結子・佐藤淳一
12. 児童養護施設における被虐待児のバウム作品2—中高生を対象とした量的分析結果	共	2011年9月2日	日本心理臨床学会第30回秋季大会 福岡国際会議場	共同発表：山田真里・今井恭平・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・佐藤淳一
13. 甘えのスタイルと強迫傾向との関連—素直な甘えと屈折した甘えとの関連から	共	2010年9月3日	日本心理臨床学会第29回秋季大会 東北大学	共同発表：大西愛美・佐藤淳一
14. 青年期における対人恐怖心性と攻撃性の関連—P-Fスタディを用いた検討	共	2010年9月3日	日本心理臨床学会第29回秋季大会 東北大学	共同発表：徳嵩かおり・佐藤淳一
15. 児童養護施設における被虐待児の心理的特徴—バウムテストを用いて	共	2010年9月3日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	共同発表：山田真里・佐藤淳一
16. Jungの心理学的タイプとTAT反応について	共	2009年9月21日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	共同発表：佐藤淳一・中條裕子・徳嵩かおり・山田真里
17. 強迫傾向と完全主義の関連—自尊感情・楽観主義による弁別	共	2009年9月20日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	共同発表：中條裕子・佐藤淳一
18. 共感性と感情機能について	単	2009年8月28日	日本心理学会第73回大会 立命館大学	
19. Jungの心理学的タイプとロールシヤッフ反応について	単	2007年9月29日	日本心理臨床学会第26回大会 東京国際フォーラム	
20. セラピストにおける心理学的タイプ—学派および技法選択からみた検討	単	2006年9月	日本心理臨床学会第25回大会 関西大学	
21. 大学生におけるバウム作品—Jungの心理学的タイプとバウム・テストについて2	共	2006年11月	日本心理学会第70回大会 九州大学	共同発表：佐藤淳一・阪田康嗣・和田卓也
22. Jungの心理学的タイプとバウム・テストについて	単	2004年9月	日本心理臨床学会第23回大会 東京国際大学	
23. Jungの心理学的タイプスケール作成の試み（Ⅲ）	単	2004年9月	日本心理学会第68回大会 関西大学	
24. Jungの心理学的タイプスケール作成の試み（Ⅱ）	単	2003年9月	日本パーソナリティ心理学会第12回大会 同志	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
25. Jungの心理学的タイプスケール作成の試み	単	2003年9月	社大学 日本心理臨床学会第22回大会 国立京都国際会館	
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. ヒルガードの心理学 第16版	共	2015年9月	金剛出版 担当 第6章「意識」 pp.274-317	Nolen-Hoeksema, Fredrickson, Atkinson, Loftus, Hilgard, Lutz. (2014):Chapter6 Consciousness. Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology 16th Editionの邦訳。第6章「意識」は、意識と変性意識状態に関する諸理論（意識と無意識、睡眠と夢、瞑想、催眠、精神活性薬）とその最新知見を取り上げている。 監訳者：内田一成
2. 『心理面接の教科書—フロイト、ユングの知恵と技から学ぶ』【再掲】	単	2015年2月	創元社	Anthony Storr (1990) The Art of Psychotherapy second edition. New York/Routledgeの邦訳。英国の著名な精神科医・心理療法家のアンソニー・ストーによる、力動的な心理療法の理論と実際について解説した書。精神分析と分析心理学の考えを良書的に統合している。第1部「心理療法の進め方」、第2部「心理療法の技法、関係性」、第3部「患者のパーソナリティ」、第4部「心理療法の治癒、心理療法家のパーソナリティ、趣味」。 監訳者：吉田圭吾；訳：佐藤淳一（全320p）
3. アーネスト・R・ヒルガード著『分割された意識—隠された観察者と新解離説』書評	単	2013年4月	雑誌「図書新聞」3105号, 第3面 株式会社図書新聞	米国の高名な実験心理学者ヒルガードが、観察と実験といった科学的手法を用いて解離現象を解明した学術書の書評。心理臨床における解離の説明、現代のこころの特徴、本書の意義について述べた。
4. ヒルガードの心理学 第15版	共	2012年5月	金剛出版 担当 第6章「意識」 pp.286-339	Nolen-Hoeksema, Fredrickson, Loftus, Wagenaar. (2009):Chapter6 ConsciousnessAtkinson & Hilgard's Introduction to Psychology 15th Edition, Wadsworth Pub Co. の邦訳。豊富な学術的資料で解説した全米で有名な教科書。第6章「意識」は、意識と変性意識状態に関する諸理論（意識と無意識、睡眠と夢、瞑想、催眠、精神活性薬、超常現象）と、その最新知見を取り上げている。 監訳者：内田一成
6. 研究費の取得状況				
1. 心理査定的印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因に関する研究	単	2017年6月～2018年3月	平成29年度武庫川女子大学科学研究費奨励金研究	研究代表者
2. 今日的不登校児童生徒への心理臨床的援助に関する研究	単	2012年4月～2015年3月	平成24～26年度科学研究費助成事業若手研究(B)	研究代表者
3. 不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究(Ⅲ)	単	2011年～2012年	平成23年度上越教育大学研究プロジェクト(若手研究)	研究代表者
4. 不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究(Ⅱ)	単	2010年～2011年	平成22年度上越教育大学研究プロジェクト(若手研究)	研究代表者
5. 不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究(Ⅰ)	単	2009年～2010年	平成21年度上越教育大学研究プロジェクト(若手研究)	研究代表者
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 現在まで	日本心理臨床学会, 日本箱庭療法学会, 日本精神分析学会, 日本心理学会, 日本パーソナリティ心理学会, 日本描画テスト・描画療法学会			